

第4回 歯科医療の専門性に関するワーキンググループ	資料3
平成28年3月24日(木)	

歯科医療の専門性に関するワーキンググループにおける確認事項（案）

1 これまでの議論で関係者間の合意が得られている事項

- (1) すべての歯科医師は生涯にわたり能動的に研修を積むことが必要とされるが、現在は各団体（歯科医師会、学会、大学同窓会、民間主催のセミナー等）が主催で様々な研修が行われている。その中で、例えば下記のような、歯科医師として必須と考えられる研修内容については標準的な内容とすべきである。
例：医療安全、感染対策、倫理、関連法規、救命、訪問診療【資料3 参考①】
- (2) 歯科医師の多くは、専門性を有していても、自らの専門性に関わらず一般歯科診療に従事している等、歯科医師の就業形態や専門医取得状況をふまえると、医師の新専門医制度と同様に、すべての歯科医師が1つ以上の専門医を取得することはなじまない。【資料3 参考②-1,2～③】
- (3) 歯科医療の専門性等に関する広告やインターネットでの情報提供については、患者等に対して必要な情報を正確に提供し、その選択を支援する観点から、関係団体等により法令やガイドラインの周知がなされるべきである。

2 関係者間で検討が必要とされる事項

- (1) 歯科医師のキャリアパスとしての研修をどのように考えるか。【資料3 参考④-1】
 - ・臨床研修を修了して間もない歯科医師への研修。【資料3 参考④-2】
 - ・既に一定の経験を積んでいる歯科医師への研修。
 - ・妊娠、出産、育児、介護等に配慮した研修。
- (2) 各団体（歯科医師会、学会、大学同窓会、民間主催のセミナー等）で主催されている研修内容は多岐にわたることから、多くの歯科医師に研修の機会を与えるとともに、研修内容の質を担保する観点から、複数団体で共同して研修を実施する等、団体間で積極的に連携を図ってはどうか。【資料3 参考⑤】
- (3) 歯科における学会は、治療体系を基本として細分化されており、また各学会の専門医等については学会独自に認定基準等を設定している。専門医等を検討するにあたり、下記の点についてどのように考えるか。【資料3 参考⑥】
 - ・各学会が認定する専門医の質を担保する観点から、客観的な認定基準の設定や研修内容の評価が必要であるが、そのために機構の設立が必要であるか。
 - ・専門医の客観的な評価と広告の可否との関連性については、どのように考えるか。

(4) 医師における総合診療医に相当する歯科医師についてどのように考えるか。【資料 2】

- ・ 必要であるか否か。
- ・ 必要であるならばどのような枠組み（位置づけや概念等）で考えるべきか。

3 関係団体等による協議

1 および 2 について、より具体的な検討が必要な事項については、医師との相違点を十分に踏まえつつ、日本歯科医師会および日本歯科医学会が主体となって検討すべきではないか。また、その際には、より客観的な意見を踏まえる必要もあることから、第三者を交えて議論してはどうか。

新しい医科の専門医の仕組みでは・・・

専門医制度整備指針（第1版）

日本専門医機構 2014年7月

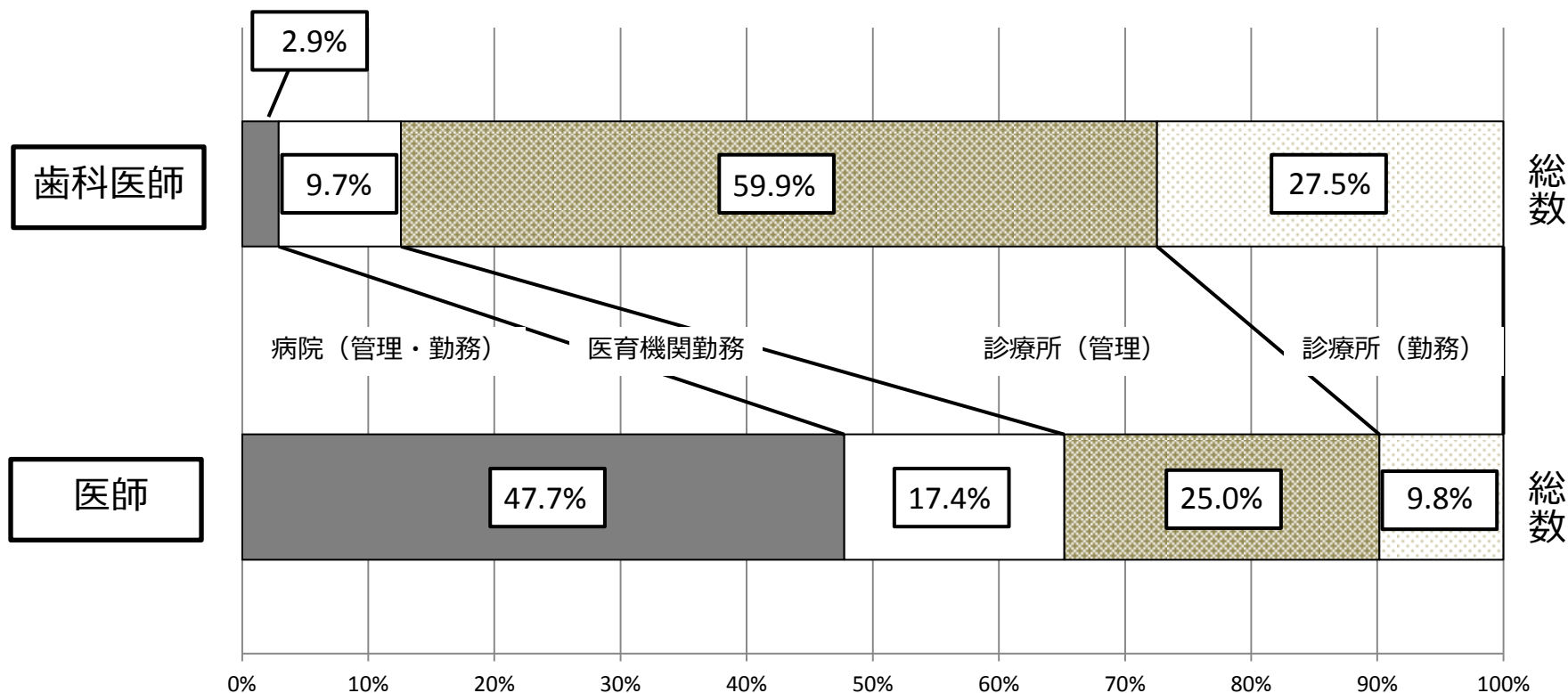
専門医の認定・更新 教育研修実績

- ・ 必修のもの
- ・ 医療安全(患者の安全と安心)
- ・ 感染対策
- ・ 医療倫理
- ・ 望ましいもの（各診療領域で取り組むべきもの）
- ・ 医師の教育に関するもの
- ・ 医療事故・医事法制に関する事項
- ・ 医療経済（保険医療等）に関する事項
- ・ 臨床研究・臨床試験等に関する事項
- ・ EBM に基づく医療に関するもの
- ・ 各専門医制度に含まれる最新の情報

60 日本医師会の生涯教育講習（方略）

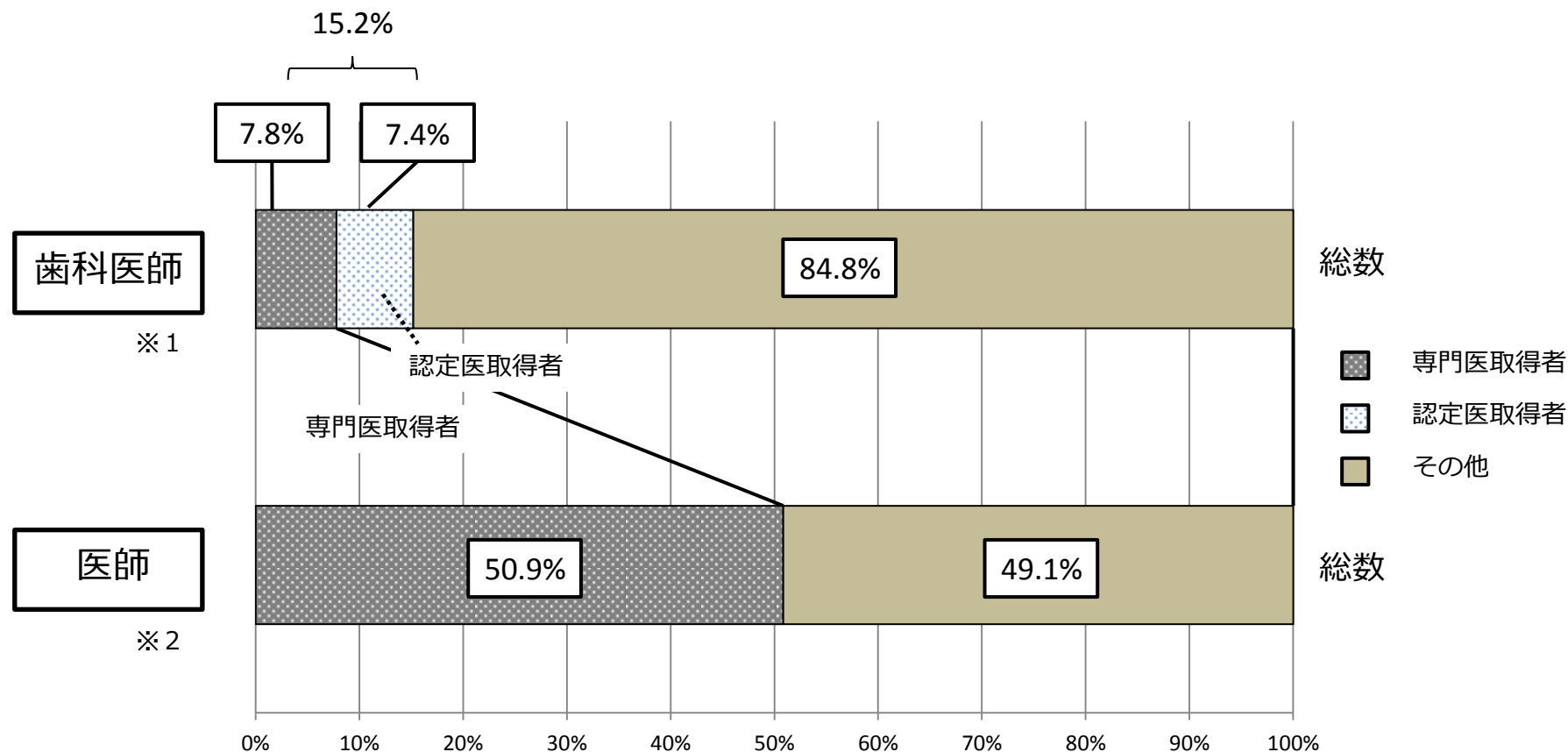


余白



出典：平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査

- 病院（管理・勤務）
- 医育機関勤務
- 診療所（管理）
- 診療所（勤務）



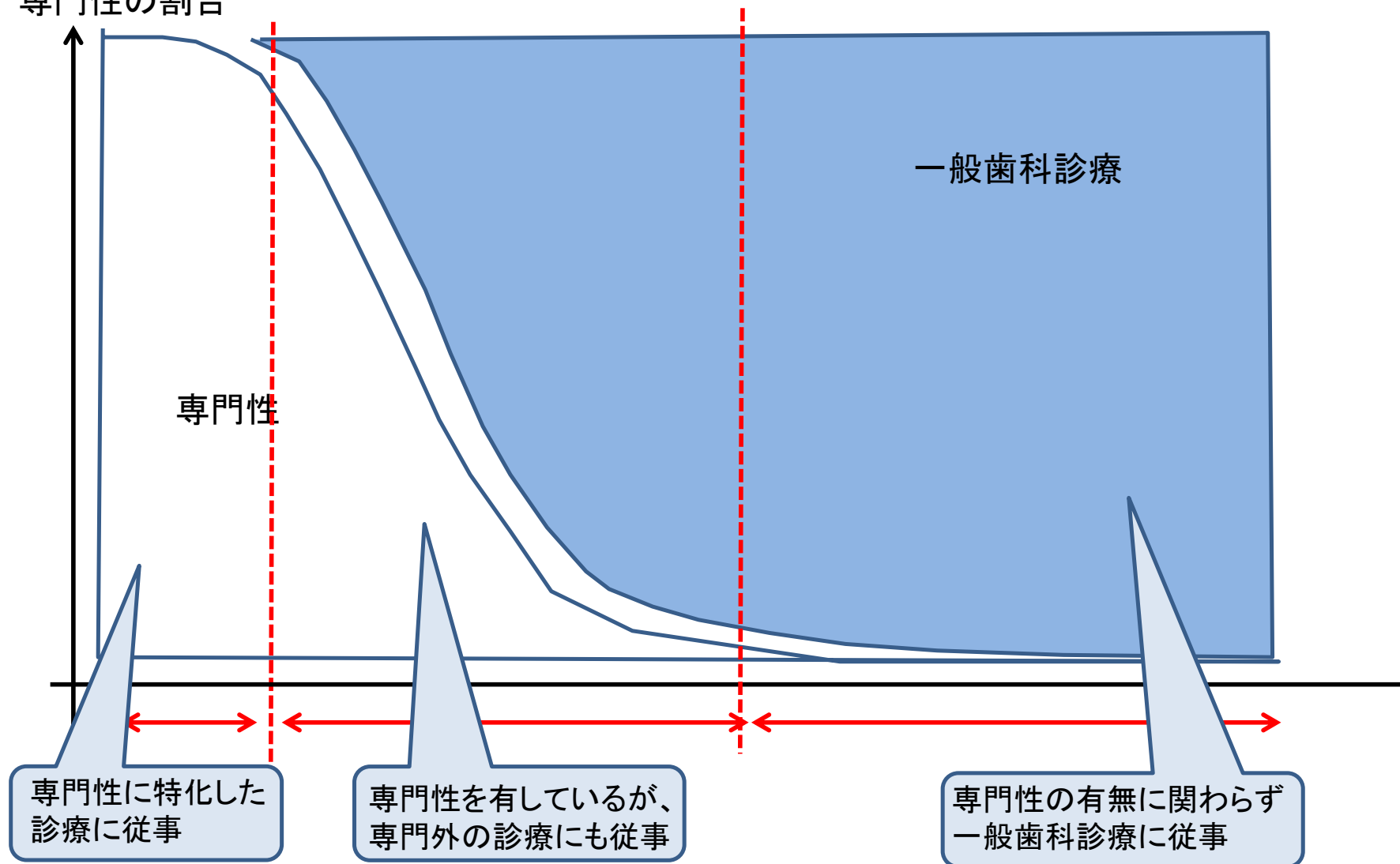
参考③

専門性と歯科医療提供内容との関係

平成27年12月18日（金）
歯科医療の専門性に関する
ワーキンググループ（第3回）
参考資料1（抜粋）

業務内容に占める
専門性の割合

イメージ図

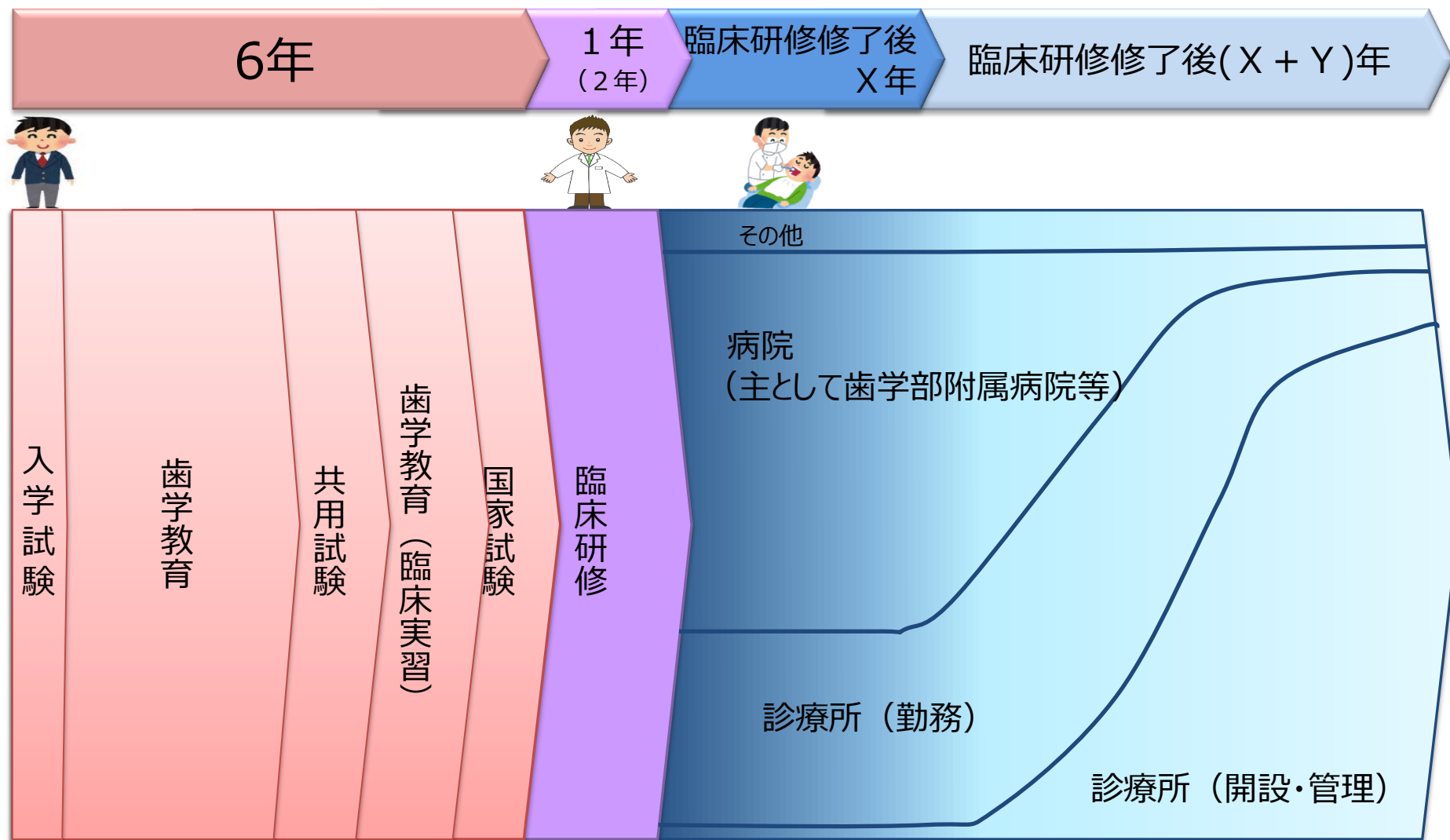


余白

参考④-1

歯科医師のキャリアパスについて（イメージ図）

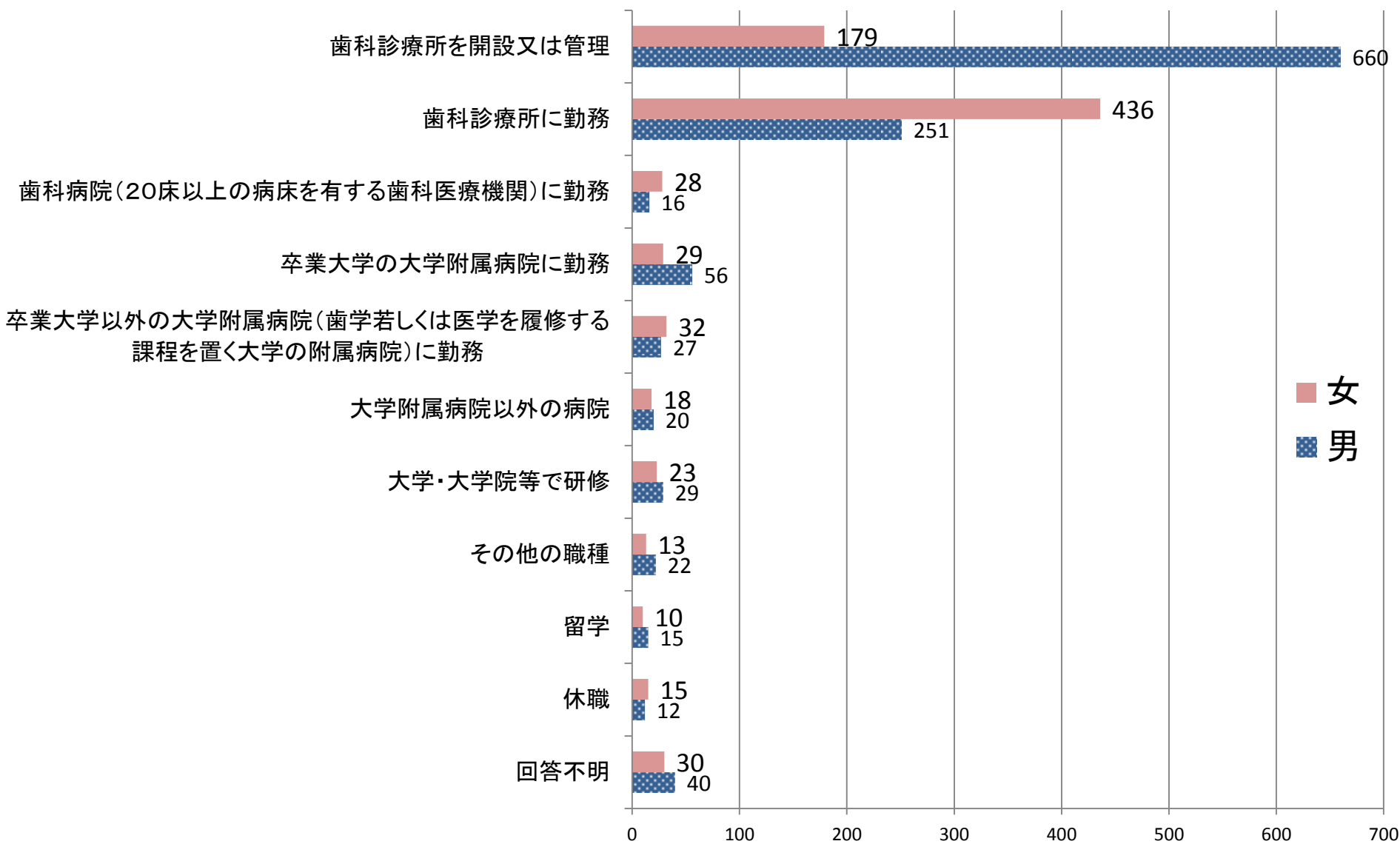
平成27年4月23日（金）
歯科医療の専門性に関する
ワーキンググループ（第1回）
資料3（抜粋）



注）H24医師・歯科医師・薬剤師調査結果を基にイメージ図を作成したものであり、必ずしも正確な数値を示したものではない

参考④-2 研修歯科医が予想する10年後の働き方

平成27年3月18日(金)
女性歯科医師の活躍に関する
ワーキンググループ(第1回)
資料2(抜粋)



上記の団体の主催での研修??

学会

研究・調査

定期的な学術雑誌の発行

成果の発表

開業医主体の
学会等で主に
行われる傾向

研修

会員同士の親睦

国際交流

一般向け公開講座

学会認定の専門医等取得

歯科医師会

日本歯科医師会

都道府県歯科医師会

郡市区歯科医師会

主催の生涯研修事業

所定の単位取得者には日本
歯科医師会生涯研修修了証
もしくは認定証を交付

大学



同窓会

民間主催のセミナー等

●●学会認定コース

玉石混淆

○○ハンズオンコース

セミナー等主催者認定の
修了証や認定証を交付

参考⑥

日本歯科医学会に所属する専門分科会及び認定分科会

平成27年12月18日（金）
歯科医療の専門性に関する
ワーキンググループ（第3回）
参考資料1（抜粋・修正）

日本歯科医学会専門分科会

- ・ 歯科医学の発展に寄与する独自の研究分野、複数の領域にまたがる複合的な研究分野
および社会的要請の強い研究分野などを含む代表的な専門学会
- ・ 会員構成500名以上
- ・ 原著論文等が、原則として年20編以上掲載（ほか）

歯科基礎医学会	日本歯科保存学会	日本補綴歯科学会	日本口腔外科学会	日本矯正歯科学会	日本口腔衛生学会	日本歯科理工学会	日本歯科放射線学会	日本小児歯科学会	日本歯周病学会	日本歯科麻酔学会	日本歯科医史学会	日本歯科医療管理学会	日本薬物療法学会	日本障害者歯科学会	日本老年歯科医学会	日本歯科医学教育学会	日本口腔インプラント学会	日本顎関節学会	日本臨床口腔病理学会	日本接着歯学会
---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	----------	---------	----------	----------	------------	----------	-----------	-----------	------------	--------------	---------	------------	---------

計21学会

日本歯科医学会認定分科会

- ・ 歯科医学の発展に寄与する独自の研究分野、複数の領域にまたがる複合的な研究分野
および社会的要請の強い研究分野などを含む専門学会
- ・ 会員構成300名以上
- ・ 原著論文等が、原則として年5編以上掲載（ほか）

日本レーザー歯学会	日本口腔感染症学会	日本有病者歯科医療学会	日本歯科心身医学会	日本臨床歯周病学会	日本歯内療法学会	日本歯科審美学会	日本顎口腔機能学会	日本歯科東洋医学会	日本顎変形症学会	日本スポーツ歯科医学会	日本顎顔面補綴学会	日本顎咬合学会	日本磁気歯科学会	日本小児口腔外科学会	日本顎顔面インプラント学会	日本外傷歯学会	日本口腔診断学会	日本口腔腫瘍学会	日本口腔リハビリテーション学会	日本口腔顔面痛学会	日本口腔検査学会
-----------	-----------	-------------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	-------------	-----------	---------	----------	------------	---------------	---------	----------	----------	-----------------	-----------	----------

計22学会

※日本歯科医学会に所属する専門分科会数は21、認定分科会数は22であり、大部分が学会独自に専門医制度を設立。これ以外にも様々な専門医が存在。⑤